

久留米市地場企業景況調査レポート(平成25年1月～3月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

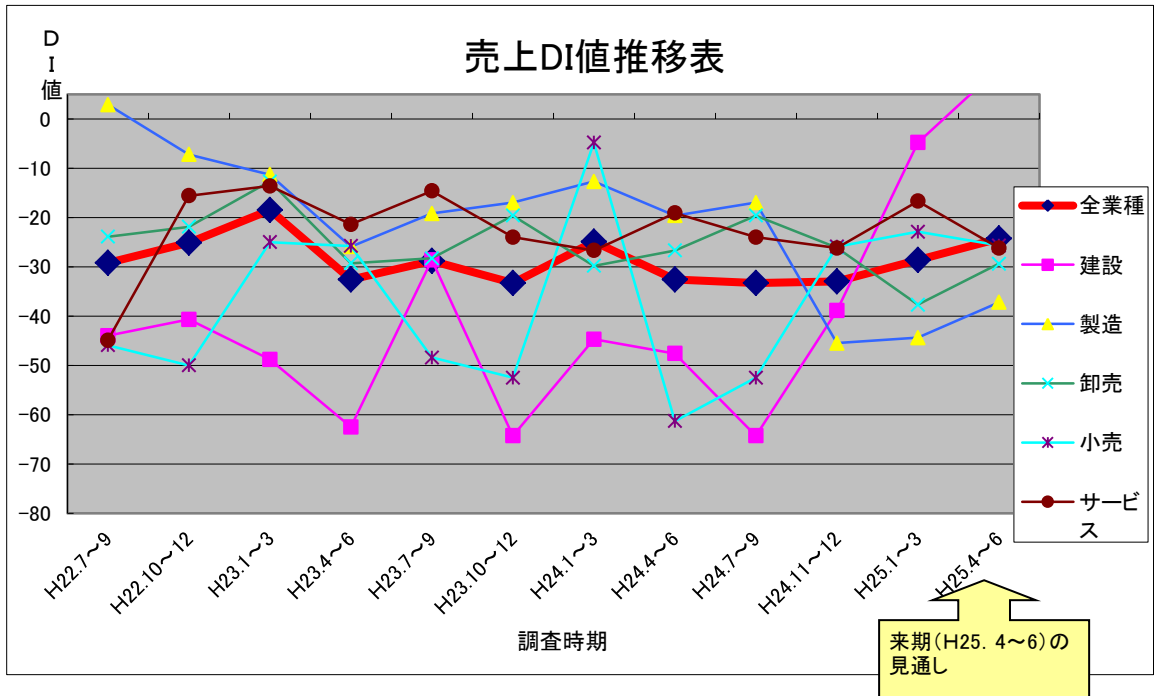
<DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

<平成25年1月～3月期調査分回収結果>

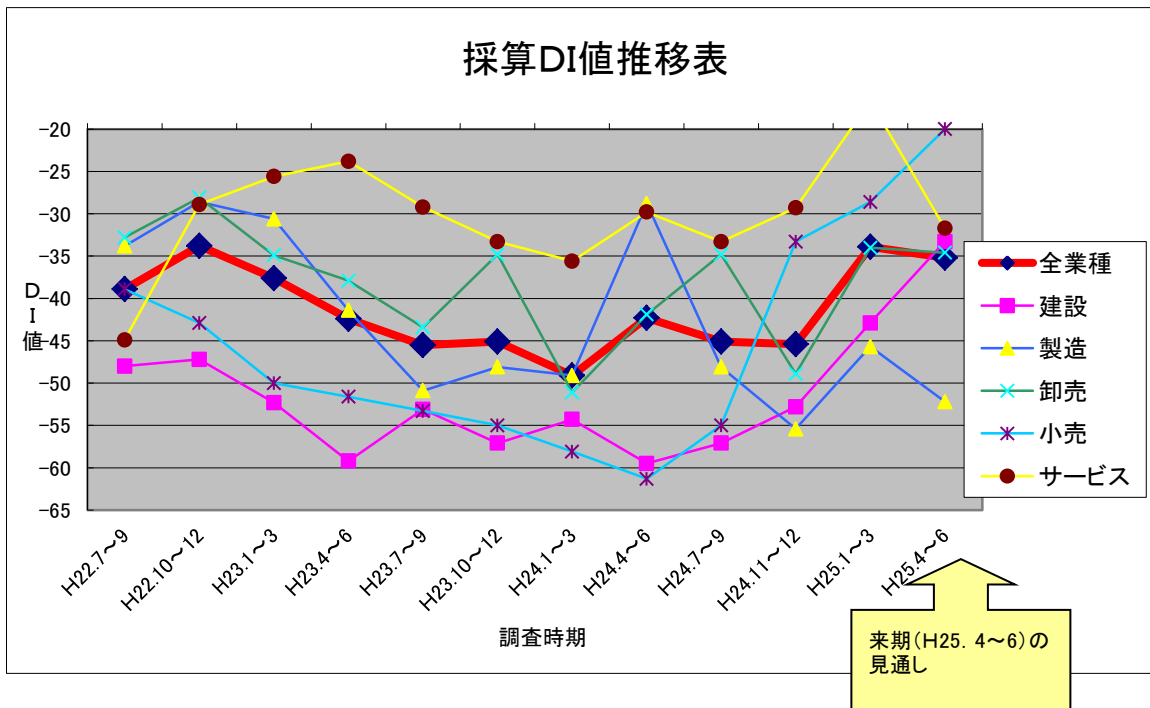
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	218	36.3%
建設業	120	42	35.0%
製造業	120	46	38.3%
卸売業	120	53	44.2%
小売業	120	35	29.2%
サービス業	120	42	35.0%



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は44社(前期比1社減)、「減少した」と回答した企業は106社(前期比7社減)、「横ばいである」と答えた企業は67社(前期比19社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は縮小して▲28. 6となり、前期比で4. 4P好転した。

業種別に見ると、建設業▲4. 8(前期比34. 1P好転)、製造業▲44. 4(前期比1. 1P好転)、卸売業▲37. 7(前期比11. 6P悪化)、小売業▲22. 9(前期比3. 0P好転)、サービス業▲16. 7(前期比9. 5P好転)となった。

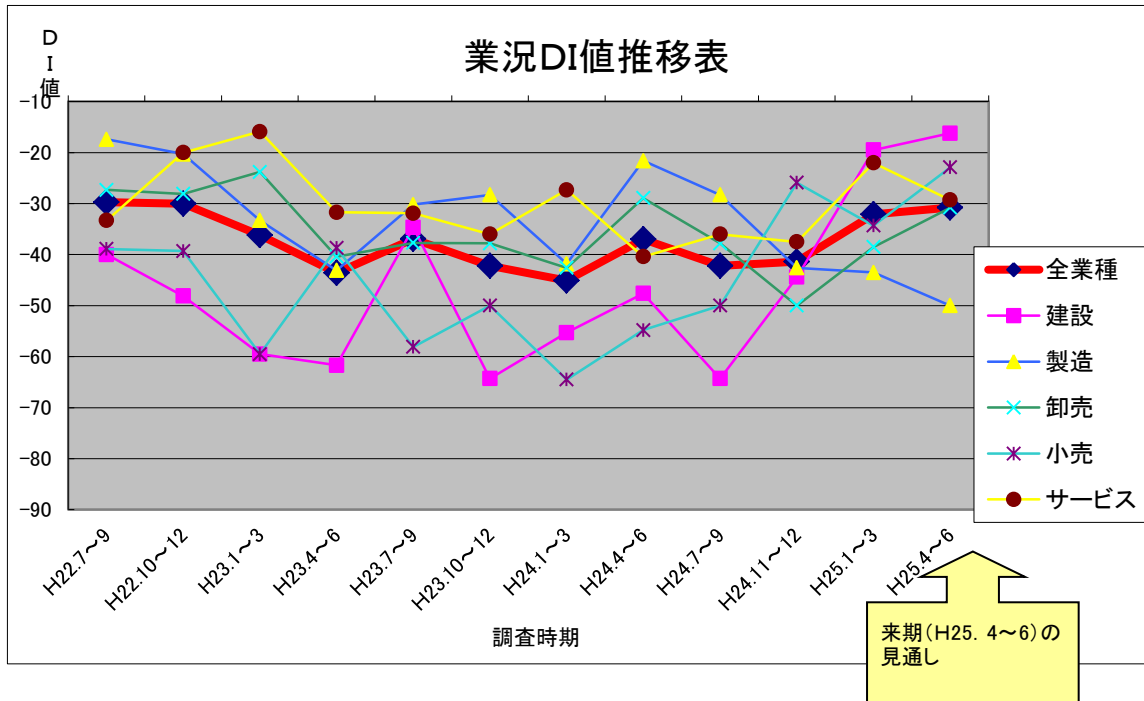
来期(H25. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲24. 3と4. 3P好転する見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は30社(前期比10社増)、「悪化した」と回答した企業は104社(前期比9社減)、「横ばいである」と答えた企業は84社(前期比12社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲33. 9となり、前期比で11. 5P好転した。

業種別に見ると、建設業▲42. 9(前期比9. 9P好転)、製造業▲45. 7(前期比9. 7P好転)、卸売業▲34. 0(前期比14. 9P好転)、小売業▲28. 6(前期比33. 3P好転)、サービス業▲16. 7(前期比12. 6P好転)となった。

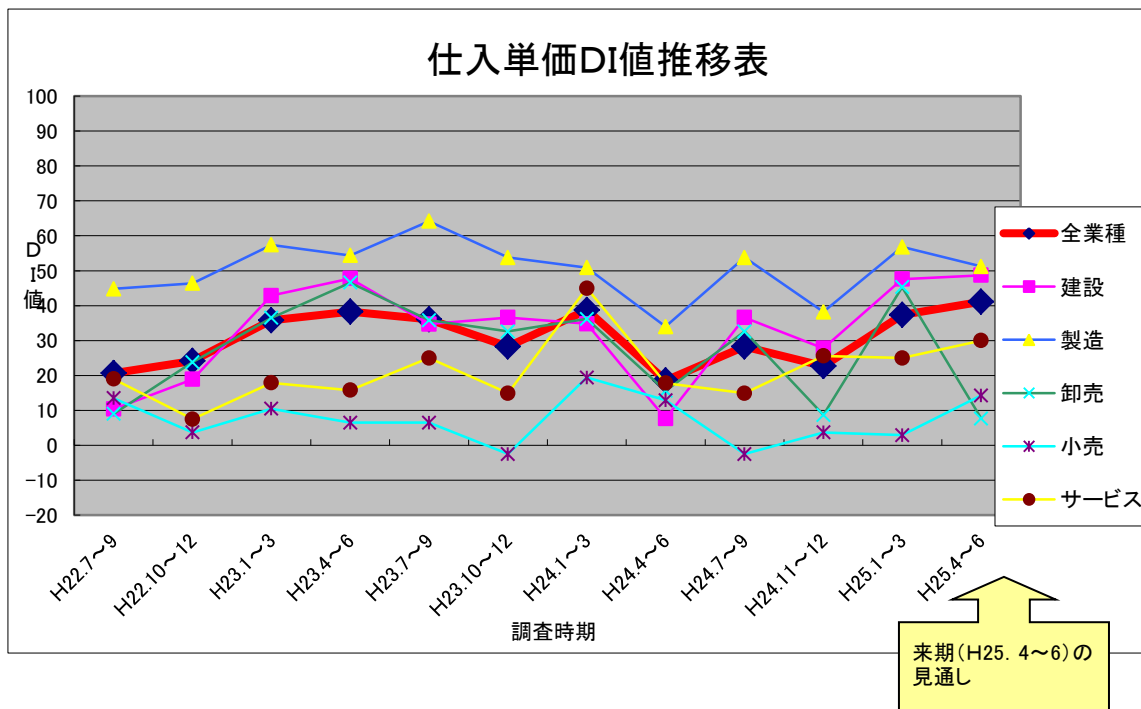
来期(H25. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲35. 2と、1. 3P悪化する見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は30社(前期比13社増)、「悪化した」と回答した企業は99社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は86社(前期比1社増)であった。DI値を見ると、▲32. 1となり、前期比で9. 3P好転した。

業種別に見ると、建設業▲19. 5(前期比24. 9P好転)、製造業▲43. 5(前期比0. 9P悪化)、卸売業▲38. 5(前期比11. 5P好転)、小売業▲34. 3(前期比8. 4P悪化)、サービス業▲22. 0(前期比15. 5P好転)となった。

来期(H25. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲30. 8と1. 3P好転する見込み。

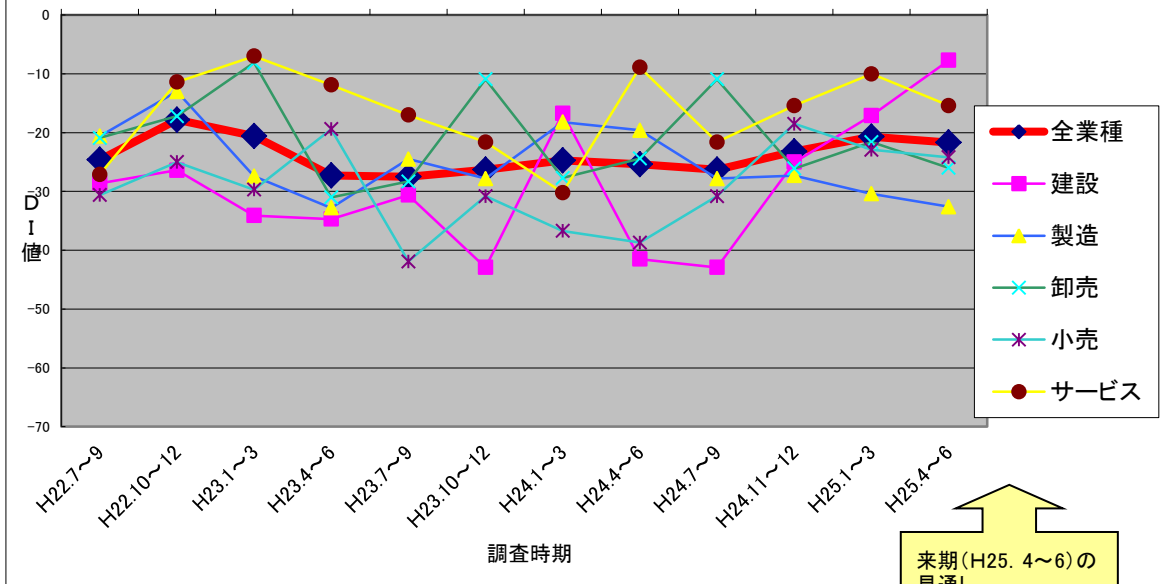


今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は95社(前期比28社増)、「低下した」と回答した企業は15社(前期比6社減)、「横ばいである」と答えた企業は104社(前期比11社減)であった。DI値を見ると、37. 4となり、前期比で14. 7P好転した。

業種別に見ると、建設業47. 6(前期比19. 8P上昇)、製造業56. 8(前期比18. 6P上昇)、卸売業45. 3(前期比36. 6P上昇)、小売業2. 9(前期比0. 8P上昇)、サービス業25. 0(前期比0. 6P上昇)となった。

来期(H25. 4~6)の見通しでは全業種DI値は41. 1と3. 7P上昇する見込み。

資金繰りDI値推移表



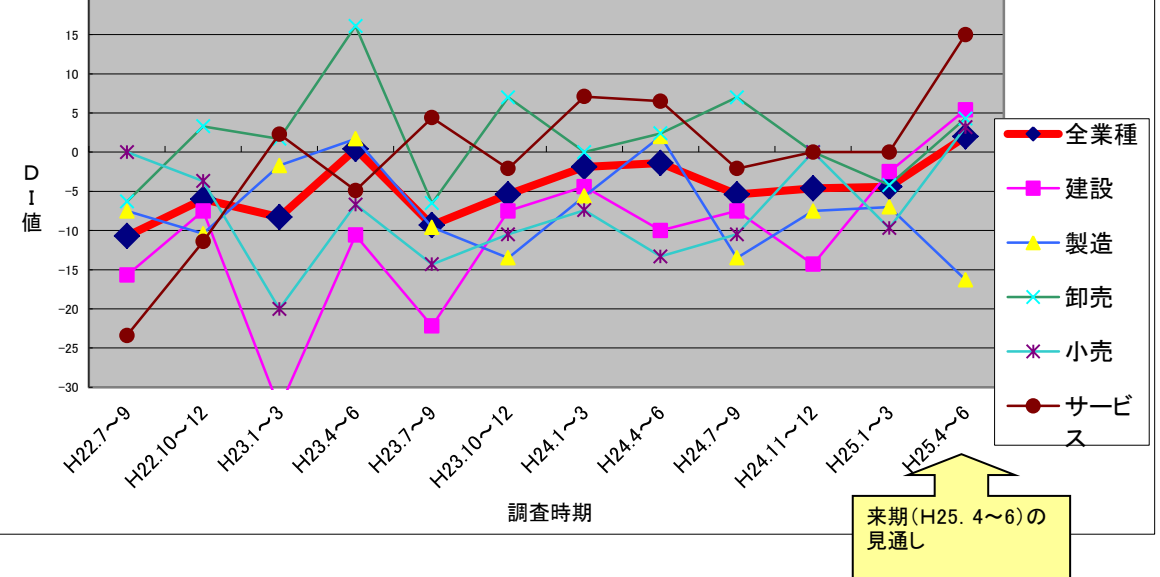
来期(H25. 4~6)の見通し

今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は15社(前期比1社増)、「悪化した」と回答した企業は59社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は139社(前期比11社増)であった。DI値を見ると▲20.7となり、前期比で2.5P好転した。

業種別に見ると、建設業▲17.1(前期比7.9P好転)、製造業▲30.4(前期比3.1P悪化)、卸売業▲21.6(前期比4.5P好転)、小売業▲22.9(前期比4.4P悪化)、サービス業▲10.0(前期比5.4P好転)となった。

来期(H25. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲21.7と1.0P悪化する見込み。

従業員数DI値推移表

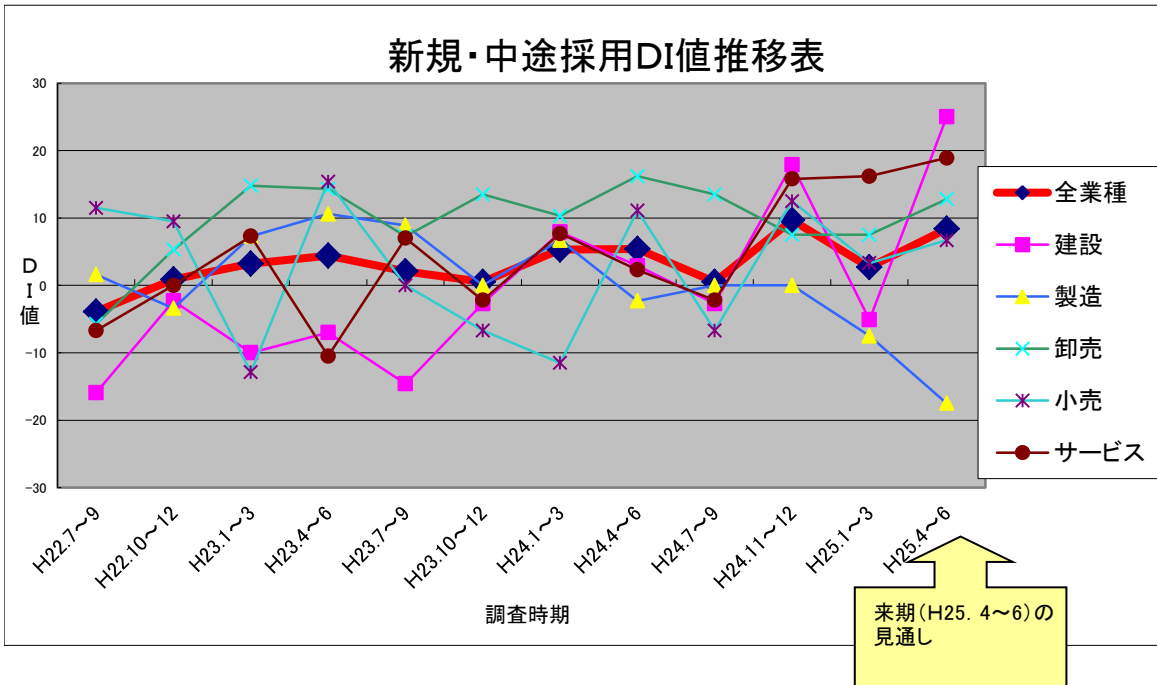


来期(H25. 4~6)の見通し

今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は30社、「減少した」と回答した企業は39社、「横ばいである」と答えた企業は134社であった。DI値は▲4.4となった。

業種別に見ると、建設業▲2.5、製造業▲7.0、卸売業▲4.2、小売業▲9.7、サービス業0.0となった。

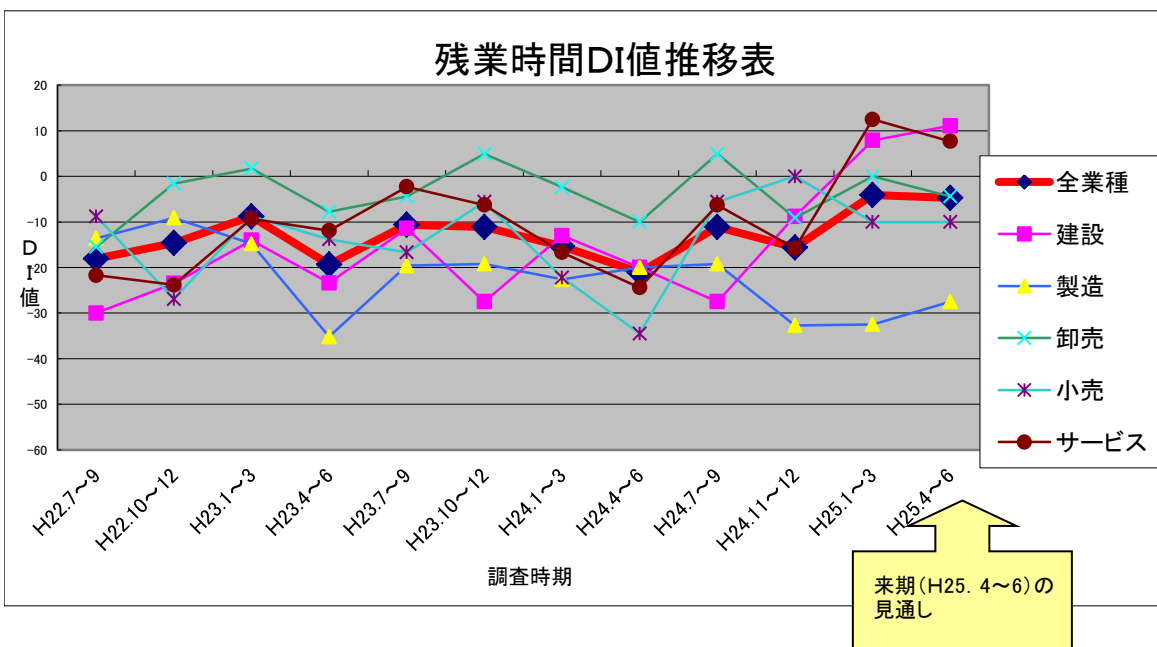
来期(H25. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は2.0となる見込み。業種別に見ると、建設業5.4、製造業▲16.3、卸売業4.3、小売業3.2、サービス業15.0となる見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は28社、「減少した」と回答した企業は23社、「横ばいである」と答えた企業は135社であった。DI値は、2.7となった。

業種別に見ると、建設業▲5.1、製造業▲7.5、卸売業7.5、小売業3.3、サービス業16.2となった。

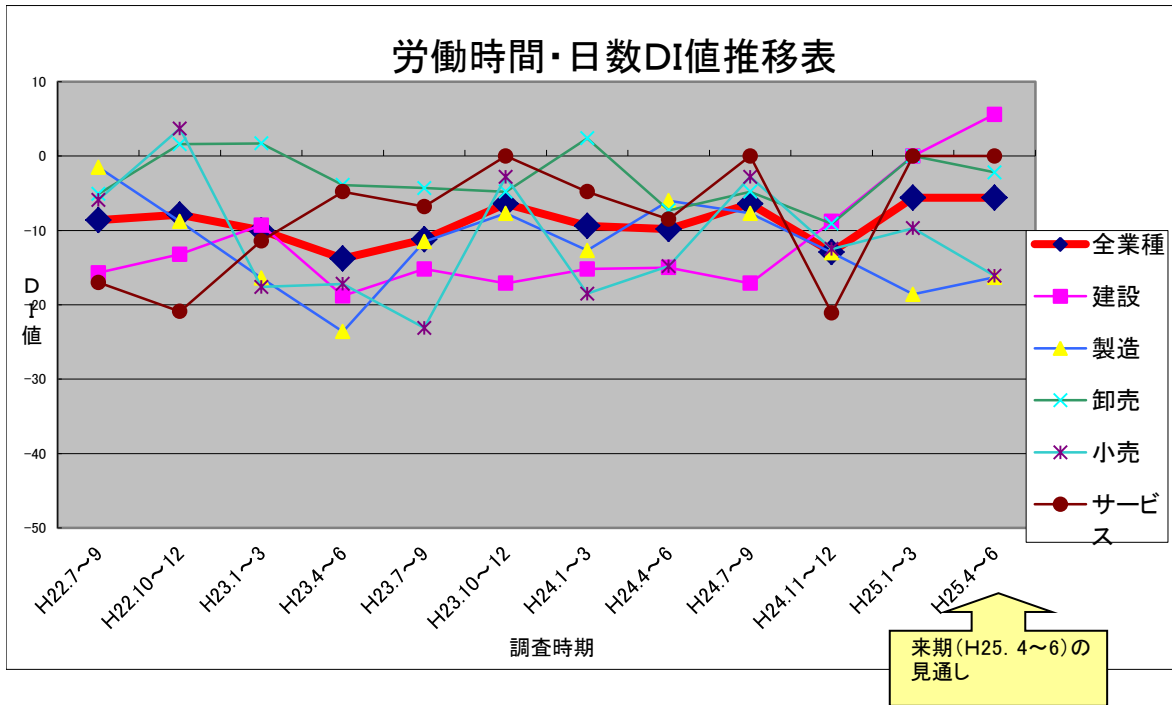
来期(H25. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は8.4となる見込み。業種別に見ると、建設業25.0、製造業▲17.5、卸売業12.8、小売業6.7、サービス業18.9となる見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は27社、「減少した」と回答した企業は35社、「横ばいである」と答えた企業は132社であった。DI値は▲4.1となった。

業種別に見ると、建設業7.9、製造業▲32.5、卸売業0.0、小売業▲10.0、サービス業12.5となった。

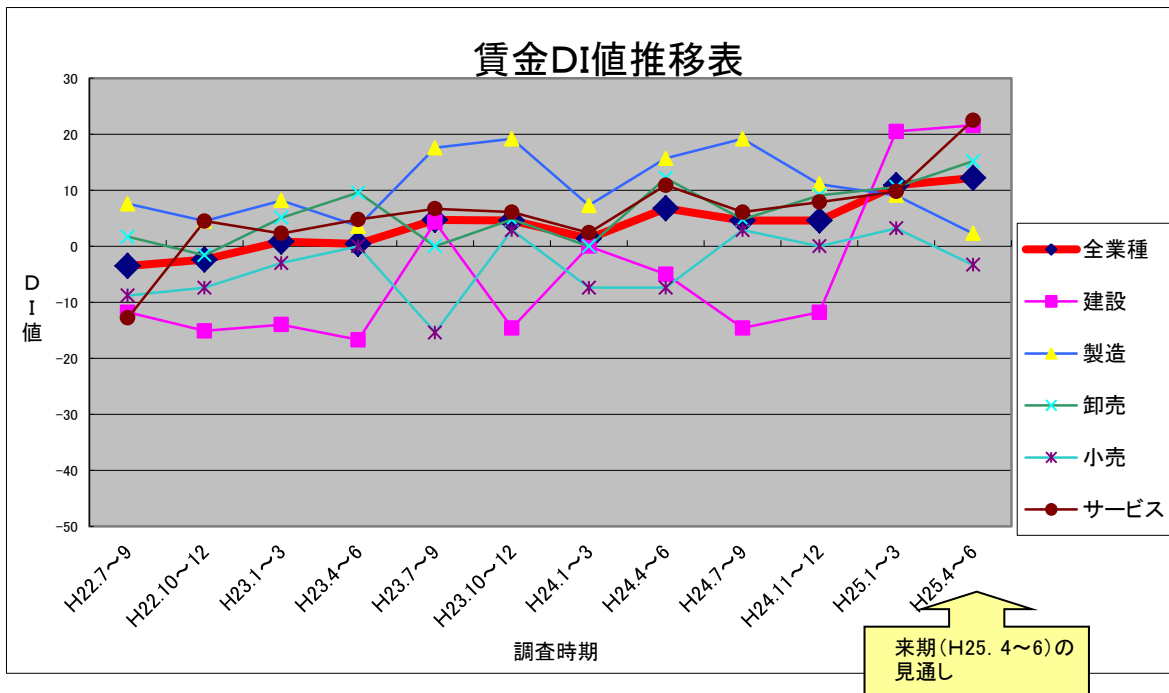
来期(H25. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲4.7となる見込み。業種別に見ると、建設業11.1、製造業▲27.5、卸売業▲4.4、小売業▲10.0、サービス業7.7となる見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は17社、「減少した」と回答した企業は28社、「横ばいである」と答えた企業は153社であった。DI値は▲5. 6となった。

業種別に見ると、建設業0. 0、製造業▲18. 6、卸売業0. 0、小売業▲9. 7、サービス業0. 0となった。

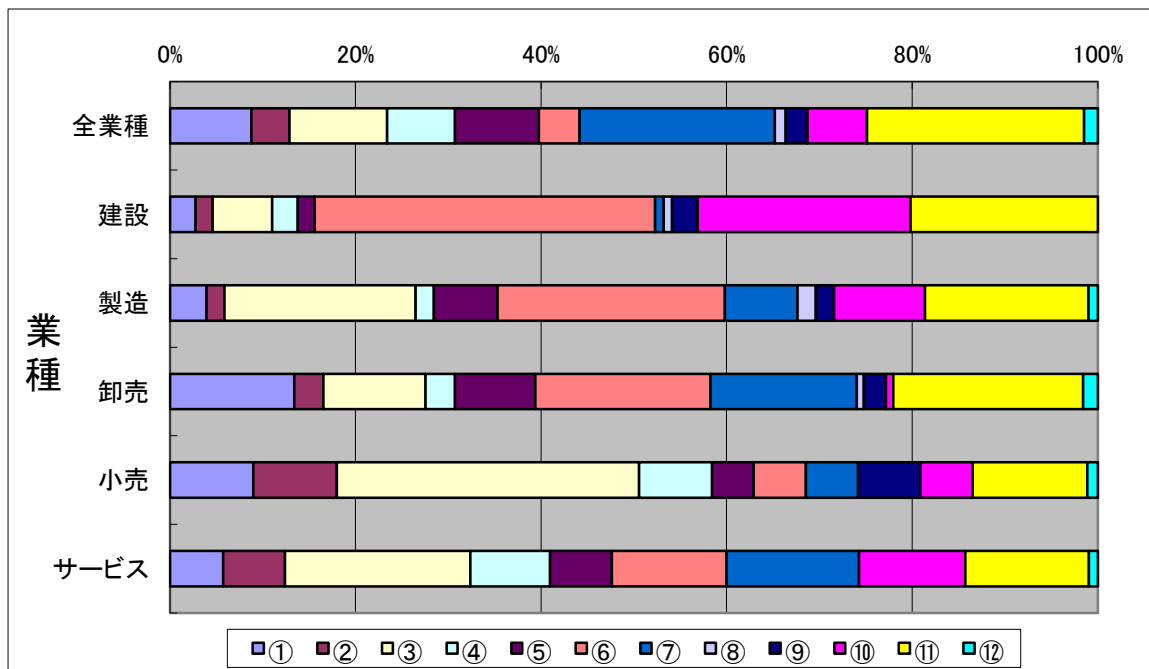
来期(H25. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲5. 6となる見込み。業種別に見ると、建設業5. 6、製造業▲16. 3、卸売業▲2. 2、小売業▲16. 1、サービス業0. 0となる見込み。



今期(H25. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は43社、「減少した」と回答した企業は21社、「横ばいである」と答えた企業は138社であった。DI値は10. 9となった。

業種別のDI値では、建設業20. 5、製造業9. 1、卸売業10. 6、小売業3. 2、サービス業9. 8となった。

来期(H25. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は12. 2となる見込み。業種別に見ると、建設業21. 6、製造業2. 3、卸売業15. 2、小売業▲3. 3、サービス業22. 5となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H25.1~3)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(23.3%)」「販売単価の低下・上昇難(21.0%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(20.2%)、製造業(17.6%)、卸売業(20.5%)、小売業(12.4%)サービス業(13.3%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

「新規採用を行いたい、経済の先行きが不透明なので採用に踏み出せない」(板金・金物工事業)
 「工事の請負金額低下により利益減が生じ、経営を圧迫している」(塗装工事業)

【製造業】

「製造コストの増加分を価格転嫁できず、経営が圧迫されている」(印刷業)
 「電気料金、燃料価格の上昇により、徐々に経営が圧迫されつつある」(電線・ケーブル製造業)

【卸売業】

「価格の安いネット販売に、一般顧客が流れつつある」(一般機械器具卸売業)
 「製品製造元の製造中止により在庫不足が生じている」(医薬品・化粧品等卸売業)

【小売業】

「ネット通販との競争激化」(他に分類されない小売業)
 「大型量販店出店により販売競争が激化している」(機械器具小売業)

【サービス業】

「利用客数、単価の減少に伴い売上が減少している」(美容業)
 「大手参入による価格競争の激化」(駐車場業)